

旧煉瓦製造施設管理活用棟  
建設等工事設計業務プロポーザル  
審査結果報告書

令和6年7月

旧煉瓦製造施設管理活用棟  
建設等工事設計業務プロポーザル審査委員会

## 1 本プロポーザルの実施目的

本公募型プロポーザルは、旧煉瓦製造施設敷地内に新たに管理活用棟を建設し、それに伴うホフマン輪窯6号窯内飲食エリアを設けるに当たり、発注者の考え方に柔軟に対応できる高い技術力及び豊富な経験等を有する設計者を選定することを目的として実施するものである。

## 2 審査会の内容

### (1) 審査経過

|              |   |
|--------------|---|
| 令和6年4月12日(金) | 第1回審査委員会(実施要領等の決定)                            |
| 令和6年4月19日(金) | 公募型プロポーザル募集の開始                                |
| 令和6年5月10日(金) | 参加申込書等の提出期限                                   |
| 令和6年5月17日(金) | 第2回審査委員会(第1次審査の実施)                            |
| 令和6年6月14日(金) | 技術提案書の提出期限                                    |
| 令和6年6月26日(水) | 第3回審査委員会(プレゼンテーション及びヒアリング、第2次審査の実施、受注候補者等の特定) |

### (2) 審査の内容

第1次審査では、参加申込書の提出があった3者について、設計事務所の能力として技術職員数、有資格者数、同種業務実績(実績の種類及び件数)、また、配置技術者の能力として保有資格、業務実績(実績の有無及び件数並びに携わった立場)、経験年数に関する審査を行い、3者を技術提案書の提出要請者として選定した。

第2次審査では、その3者から提出された業務実施方針及び4つのテーマ(テーマ1『深谷＝煉瓦』のシンボル、文化学習・観光の拠点となる施設、テーマ2来場者及びスタッフの効率の良い動線計画、テーマ3文化財に配慮した建築計画、テーマ4煉瓦窯の魅力を活かした飲食エリアのデザイン)に対する技術提案書について、プレゼンテーション及びヒアリングを実施した。業務実施方針については、業務の理解度、取組方針・実施体制・工程計画・配慮事項の的確性、また、テーマに対する技術提案書については、テーマごとに的確性、独創性及び実現性の観点から評価を行った。その後、これに業務見積書評価を加え、審査委員会委員による合議制審査により各者の合計評価点を決定し、点数が高い方から順に受注候補者、次席者を選定した。

### 3 参加者数

3者

### 4 審査結果（第2次審査）

| 区分    | 参加者名（呼称）            | 合計評価点  |
|-------|---------------------|--------|
| 受注候補者 | 荻原雅史建築設計事務所         | 69.30点 |
| 次席者   | 株式会社 yHa architects | 55.10点 |
| —     | A社                  | 54.20点 |

（100点満点）

### 5 審査委員会の構成

| 役職   | 氏名    | 職名                     |
|------|-------|------------------------|
| 委員長  | 長原 一  | 深谷市副市長                 |
| 副委員長 | 松村 一  | 深谷市教育部長                |
| 委員   | 福島 正孝 | 産業振興部次長兼<br>産業ブランド推進室長 |
| 委員   | 塚越 稔  | 渋沢栄一政策推進課長             |
| 委員   | 中島 武彦 | 教育施設課長                 |

## 6 審査講評

各提案者とも深谷市の現況やこれまでの経緯、他の観光施設などを踏まえ、深谷を訪れる人のことを考慮した提案で、熟度の差はあるもののそれぞれの思いが伝わる内容であった。業務実施方針については、深谷市におけるホフマン輪窯の活用方針についてよく研究されており、それを実現するために高い専門性を持つ設計チームで業務に対応することなどが伝わる内容であった。テーマ1については、旧煉瓦製造施設全体及び深谷市の歴史のガイダンスの役割を果たすとともに、市内観光周遊の拠点となる新しい施設として、幅広い来館者層が足を運びたくなるような新しい技術や流行を取り入れた建築計画が提案された。テーマ2については、ホフマン輪窯来館者の動線、レストラン利用者の動線、スタッフの動線に分けて、効率よく人と物の行き来ができるよう、それぞれの立場に配慮した動線計画の検討がされていた。テーマ3については、国の重要文化財であるホフマン輪窯に隣接する建物として、細心の注意を払った建設工事等の計画の検討がされていた。テーマ4については、煉瓦室内の非日常空間に飲食エリアを設け、ここでの飲食を目的として、インバウンド観光客を含む来館者が訪れたいくなるような飲食エリアのデザインの提案であった。

受注候補者として特定された荻原雅史建築設計事務所の提案は、各評価項目において高い評価を得ており、特にテーマ1に掲げる『深谷＝煉瓦』のシンボル、文化学習・観光の拠点となる施設への理解度が高く評価された。具体的には、交通手段のくるリンの記載や深谷の煉瓦の面的な広がり、消費地とのかかわりなどを含めてデザインすることが3者の提案中、唯一提案されており、高く評価できる。その他、緊急車両動線など施設利用者に対する安全安心への配慮をふまえていることも、評価された。イベント・ワークショップについては、室内だけでなく屋外でつながり活用することでスペースの狭さを感じさせないという評価もあった一方で、社会科見学等での利用の観点から、雨天時の利用も見込んでの屋内のワークショップスペースの確保に関する意見も出された。

次席者となった株式会社 yHa architects の提案は、活用棟の天井について煉瓦窯を意識したヴォールド天井にし、活用棟と窯を離し中庭を設けるなど、よく練られた計画で高い評価を得た。テーマ3の文化財に配慮した建築計画については、鉄骨部材を細かくして、文化財に影響のないような立て方など工事の面についても考えられているなど高い提案力を感じるものであった。一方、管理活用棟内部の視認性、窯と活用棟の間の渡り廊下など飲食との動線や煉瓦ウォールの維持管理が難点であることなどが懸念された。